

其利群生の もりをめざして



森厳護持

総本山金剛峯寺 山林部長 山口文章
弘法大師が真言密教の根本道場として高野山の地を選ばれたのは、祖山が類まれなる大自然に包まれた信仰環境の勝地であったからに他なりません。

高野山中興の祖筆頭である祈親上人が、はじめて高野山に登嶺されたのは長和五年（一〇一六）のことでした。当時の山上は正暦五年（九九四）の大火や相次ぐ高僧の遷化により疲弊しきっていました。壇上伽藍は焼け跡のまま、奥の院御廟のまわりには人気なく、橋は朽ち果て参道は苔むす有様でした。

まさに法燈が絶えようとする高野山の復興を占うため、上人は御廟前に生い茂った青苔に祈りを込めて切り火を打つと、不思議なことに水が滴る青苔から力強い炎があがったのでした。歓喜の涙が止まらぬ祈親上人は、この聖なる燈明を御廟前に献燈し、燈籠堂の由来となりました。祖山の復興を願う祈親上人が、一番はじめに着手したのが造林事業でした。それは、大師がこよなく愛された森厳な環境を復元することが、高野山にとって最重要であるという確信があったからに違いありません。その後、祈親上人の浄行は、多くの先德のご威徳により培われた結果、理想的な信仰環境が高野山上に連綿と護持されてきました。

先德の浄行を継承し、千年後、さらに千年後も人々の信仰心に直接語りかける森厳な信仰環境を維持することが山林部に課せられた最大の使命であると確信しています。

山林事業に対する多くの皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

合掌



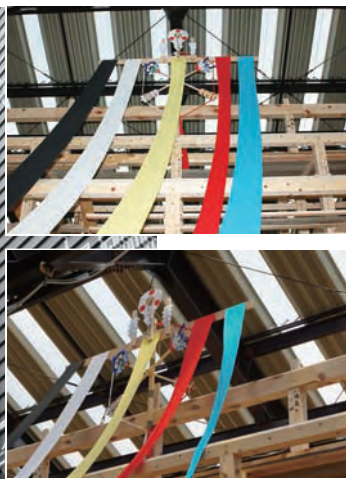
高野山開創1200年記念大法会
法会期間 平成27年4月2日～5月21日



高野山の「木づかい」

国産の木を使うことによって森の整備ができます。

間伐を行った森は生命力に満ちあふれており、森が元気になることで温暖化防止につながります。この「木づかい」運動は全国レベルで展開されています。いまの高野山で代表される「木づかい」は、総ヒノキ造りの中門です。



この再建中の中門上棟式が、お大師さま御生誕を祝う「青葉まつり」の6月15日午前、松長有慶管長御導師のもと、執り行われました。

式では、今後の工事安全と災難よけを祈る上棟飾りと、五色の布が掛かる中門を前に読経が行われ、多くの参詣者が見守るなか、一年後の無事完成を祈られました。工事は今後、屋根の檜皮葺作業が始まり、来年6月を目処に門を覆った素屋根が外されます。

伝統を伝える

高野の宮大工

今回は引き継がれる技法「光り付け」についてご紹介いたします。伽藍中門再建に使用される用材のうち、大きな部材は全て高野霊木です。

山林部が長い間見守り育んできた高野霊木の特徴は、寒冷地で育つゆえに木目が細かく、油分が多く、通常の松より強度があり、耐候性も抜群です。

そして、その高野霊木の強さを生かすべく、柱と基礎石（これも高野山麓産です）部分に、「光り付け」という作業を施してあります。

これは、自然石の凹凸そのままを、柱の底部に刻んで写し取るもので、この作業をすることを「光り付ける」と呼ぶのです。石の表面にチヨークを塗り、柱を垂直に持ち上げてから石の上に置き、チヨークが付いたところを削るとい



作業を繰り返すのです。ちょうど歯医者さんが歯形を取る作業に似ています。が、なにしろ柱の重さは約1t。18本の柱を光り付けるのに約4ヶ月を要しました。

しかし、こうすることで、柱は基礎石にそれこそ水も漏らさぬほどピタリと合致するため、石の上に乗せたただけで、建物の芯に完全に垂直に自立するようになります。少々の地震が来たとしても、自動的に元の位置に戻るわけです。

このように、中門は高野ならではの強靱な用材と、古来から伝わった匠の技により、再建され、平成25年の1200年開創法会では、伽藍の玄関として威風堂々とした姿を見せてくれることでしょう。

取材協力 (株)尾上組 尾上恵治





高野山真言宗参学会事業の一貫として国道480号に「お山を美しく」と題された看板を設置していただきました。来山者に環境、美観整備を呼びかけます。金剛峯寺の管理する寺領はこの看板が起点となります。

参与会

霊木をまもる

以前、神社に立つ樹齢数百年のご神木が四国を中心として急に枯れると言うニュースがありました。

高野山でもその命を全うした霊木が枯れることは珍しくありません。しかしそのご神木の枯れ方が不自然な事で問題となりました。突然木が枯れ始め1ヶ月後、木材業者があらわれ「枯木を放置すると危険なので伐採して買い取りましょう」と申し出があったと言います。神社の管理をする地域住民で話し合っ

てこのご神木の売却を決定し契約を結びました。

ところが伐採の折に大きな問題が発生しました。

以前、神社に立つ樹齢数百年のご神木が四国を中心として急に枯れると言うニュースがありました。

高野山でもその命を全うした霊木が枯れることは珍しくありません。しかしそのご神木の枯れ方が不自然な事で問題となりました。突然木が枯れ始め1ヶ月後、木材業者があらわれ「枯木を放置すると危険なので伐採して買い取りましょう」と申し出があったと言います。神社の管理をする地域住民で話し合っ



高野山にはたくさんさんの名所があります。その中から今回は歴史的な痕跡が残る棺掛桜を紹介いたします。

場所は奥之院参道、中の橋北詰め左側に小桜があり「棺掛桜」の標が立てられています。この度この跡地を整備する事になりました。

この桜は、深く大師に帰依した嵯峨上皇が逝去されたとき、京の嵯峨野で葬儀が営まれました。そのとき、天上に五色の雲がたなびき空中から赤衣着物をきた8人が現れて上皇の棺をかついで南に去っていききました。このとき嵯峨野と高野山の間は五色の雲でつながって見えたそうです。やがて棺が奥の院参道のこの桜の枝に掛かっていたと伝えられています。

整備後の写真は次回ご案内させていただきます。



現在の様子

高野山銘木の跡をたずねる

空師そらし

伽藍の景観整備は最終段階をむかえております。

6月中旬に枯木の伐採をしました。

高所での作業をする人を空師（そらし）と言います。

今回はそらしの目線を紹介します。



ゴンドラから見た景色



根本大塔は高さ約48.5m

編集後記

7月に新しい山林部長が就任しました。前部長から退任に際し山林部の仕事は、派手さはないが祖山を次世代に継承するために地道にこつこつと業務を遂行してくださいという言葉をいただきました。木は一年に数ミリしか成長しませんが100年200年かけて高齢級の質の良い木になります。役員が替わっても高野山の豊かな森を後世に伝えるための方向性は変わりません。私たちはこつこつと山づくりに努めます。これからも会報を通じて山林部の活動を見守っていただきたいと思います。おつかれさまでした。

ウェブでも情報発信中!!

<http://koya-forest.jp/blog/>

山林部ブログ

検索

『献木』お振込先

振替用紙をご送付致しますので、山林部までご連絡下さい。
郵便振替口座：大阪 00930-6-61758
ゆうちょ銀行：〇九九支店 当0061758
加 入 者 名：宗教法人 金剛峯寺山林部

平成26年版
予約受付中



木製干支カレンダー
松長有慶座主短冊付

価格3500円

高野霊木を使用した
干支カレンダーが
出来ました。

限定1,000本

一千年。二千年。
変わらぬ価値がある。



高野杉を使った
『高野山霊木の家』に
ぜひお越し下さい。

お問い合わせ

〒648-0211 和歌山県伊都郡高野町高野山132
金剛峯寺 山林部
TEL.0736-56-2016(直) FAX.0736-56-4640
※次号から会報の送付を停止する場合は、お手数ですがご一報ください。